

総括

■ 機能種別

主たる機能種別「慢性期病院」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および6月19日～6月20日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

機能種別	慢性期病院	認定
------	-------	----

■ 改善要望事項

- ・機能種別 慢性期病院
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は、診療所設立を経て病院を開設し、病院開設に伴い組織を医療法人化したのちに、増築・増床、機能の充実に取り組んできた。地域の医療ニーズを踏まえ、幾重の変遷を重ねて現在に至っている。地域の慢性期病院としての位置づけを明確にしており、グループ総合病院と連携して後方支援病院としての役割を担っている。

今回の病院機能評価では、医療機能の向上に取り組み質改善に取り組んでいる状況を確認した。今回の受審が今後の継続的な質改善への取り組みの一助になることを祈念する。

2. 理念達成に向けた組織運営

理念・基本方針はわかりやすく明文化されており、院内外に周知している。基本方針は医療情勢などを踏まえ、見直しの場を設けている。病院の意思決定会議は明確であり、院内に適切に伝達している。なお、組織図は実態と整合を図るよう見直しを期待したい。院内の情報については、今後、正確な情報を把握し、有効活用できるよう体制の整備を期待したい。文書管理に関する規程を整備し、管理すべき文書の範囲等を明確にして適切に運用している。

人材の確保を課題としており、病院機能の充実に向けて、今後、看護補助者、言語聴覚士、診療情報管理士の確保を期待したい。就業規則等を整備し、職員の労働時間を適切に管理している。衛生委員会を定期的を開催し、職員の安全衛生管理は適切に行われている。職員の意見・要望を毎年収集し、把握に努めている。職員の院内研修は、年間計画を策定して実施しているが、必要性の高い研修を見直し、網羅した研修を実施することを期待したい。職員の能力評価・開発は、活動基準書・目標管理シートを活用し、取り組んでいる。

3. 患者中心の医療

患者の権利を明文化し、ホームページなどで周知している。また、職員には研修などで周知を図っている。説明と同意に関するマニュアルを策定したばかりであり、今後の運用の徹底を期待したい。患者との診療情報共有は、入院前面談で医療福祉相談室のMSWが意見・要望を確認し、入院問診票情報と共に院内で情報共有をしている。個人情報保護は指針、規程、利用目的を定め、職員に研修を行っており、診療の場面などにおいて、患者のプライバシーを保護するよう適切に対応している。倫理的課題について、臨床倫理規定を明文化しているが、内容を周知することを期待したい。臨床場面で把握した倫理的課題は、日々話し合い、多職種による合同カンファレンスで検討する仕組みである。

最寄り駅から徒歩で来院可能であり、バスや駐車場の利用も可能である。また、院内は整理整頓されており、バリアフリーなどを確保し、安全性、快適性に配慮されている。敷地内禁煙の体制があり、院内掲示、入院案内、ホームページに掲載し、入院相談や入院オリエンテーションで周知を図っている。

4. 医療の質

業務の質改善に向けた取り組みとして、継続的に病院機能評価を受審しているが、経常的に組織横断的な改善活動に取り組む会議・委員会（業務改善委員会など）の設置を期待したい。診療の質向上に向けた活動として、合同カンファレンスを通して、情報共有が図られている。慢性期病院として自院に必要な臨床指標を検討するとともに、クリニカル・パスの作成に繋げる活動を望みたい。院内にご意見箱を設置し、患者・家族の意見を把握し、対策を検討しているが、意見に対するフィードバックの体制については検討を期待したい。新たな診療・治療方法や技術の導入に向けて、多職種で検討し、導入後の効果の評価ができるよう組織的な体制を整備することを期待したい。

診療・ケアの管理・責任体制については、看護管理者等を表示しているが、病棟責任医師を定め、明示することを期待したい。診療記録は紙カルテであり、各職種は適切に記載している。多職種が協働し、各種カンファレンスで情報を共有し、専門チームの回診などが適切に行われている。

5. 医療安全

安全確保に向けた体制は、複数の医療安全に関する研修修了者が在籍しており、定期的な委員会の開催など体制は適切である。医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者の任務と権限の明文化を期待したい。アクシデント・インシデントの情報収集、再発防止への取り組みは、適切である。また、医療事故に関するマニュアルを整備し、緊急時の連絡体制、当事者へのメンタルケア体制などを確保している。

誤認防止対策として、入院患者はリストバンドを装着し、処置を行う際はダブルチェックを行い、誤認がないよう取り組んでいる。医師の指示出し、指示受けなど、情報伝達エラー防止対策は、確実に行われている。劇薬・ハイリスク薬の可視

化して注意喚起を行い、麻薬の管理などを適切に保管・管理している。多職種により、危険度に応じた転倒・転落防止対策が行われている。ベッドサイドモニターの使用マニュアルを整備し、使用前点検を行ってから使用しており、看護師、医療機器安全管理責任者が定期的に点検を行っている。急変時の対応として緊急コードを設定し、招集訓練を実施しており適切である。

6. 医療関連感染制御

医療関連感染制御に向けた体制は、院内感染対策委員会を開催し、感染対策チームのラウンドを実施している。連携病院の合同カンファレンスに参加し、地域の感染情報の収集を行っている。アウトブレイクへの体制を整備しており、新型コロナウイルス感染症のクラスターに適切に対応した実績がある。カテーテル関連血流感染および膀胱留置カテーテル関連尿路感染のサーベイランスを行っている。

標準予防策および感染経路別予防策をマニュアルに基づいて適切に実施している。PPEの正しい着脱方法と手指衛生の研修会を開催し、正しい方法の周知徹底に取り組んでいる。抗菌薬については、多職種が参加する薬事委員会にて、抗菌薬の採用と中止について検討している。抗菌薬の適正使用の指針は最近大幅に改定し、全ての注射用抗菌薬の使用状況を毎月医師にフィードバックして、自院の使用状況の把握に努めている。アンチバイオグラムの作成なども適切である。カルバペネム系抗菌薬と抗MRSA薬を届け出抗菌薬と定め、届け出用紙を用いて適切に抗菌薬を使用している。

7. 地域への情報発信と連携

診療内容や医療サービス等の情報は、主にホームページで発信している。広報の管理部署などを明確にし、診療実績等は整合性のある情報を掲載することを期待したい。地域連携室を中心に、地域の医療関連施設と連携している。ケアマネジャーが地域包括支援センターなどで地域のニーズを収集し、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れている病院間の意見交換会等を通して、地域連携を図っている。また、近隣のグループ病院と診療連携協定を結んでおり、患者の紹介・逆紹介などに対応している。地域への教育・啓発活動は、薬剤師が中学校に赴き、保健指導に関わる活動などを行っている。

8. チーム医療による診療・ケアの実践

受診に必要な情報は主にホームページに掲載しており、外来は完全予約制としている。地域連携室と情報共有し、症状に応じてトリアージ体制などが行われている。入院の決定は、基準に基づき入院判定会議で検討している。医療相談は医療福祉相談室で対応しており、入院前面談を通して円滑な入院を図っている。

医師は病棟においては合同カンファレンスで情報共有を図り、指導的役割を果たしている。看護・介護職はそれぞれの役割を明確にし、看護・ケアに取り組んでいる。注射薬は、薬剤師が看護師に注意喚起するよう情報提供し、安全な使用に繋げている。褥瘡予防は、皮膚科医を含む多職種で回診し、対応している。主治医の指

示に基づき、療法士はFIMにてADLを評価している。リハビリテーション実施計画書を作成し、患者・家族に説明し、同意を取得している。身体抑制は入院時におおむね前医の指示を継承しているが、自院の基準に即した対応を望みたい。退院支援は入院前面談で意向を確認し、多職種で対応する体制がある。退院後の継続した診療・ケアの対応も適切である。終末期には患者・家族との意向に沿った対応を行うよう取り組んでいる。ターミナルステージの判断は複数医療者による、基準に沿った判断が望まれる。

9. 良質な医療を構成する機能

薬剤管理機能は、限られた人員の中で処方・調剤鑑査を実施し、麻薬・劇薬・ハイリスク薬の管理なども適切である。臨床検査機能の体制は、臨床検査技師の1名体制であり、外部委託と併用して適切に実施している。パニック値など情報伝達も適切である。画像診断はX線撮影と骨密度検査に対応している。緊急時対応を定め、肺炎などの異常が見られる場合は、早急に担当医に連絡している。栄養管理機能は、保温食器による適時・適温の体制があり、従業者・厨房の衛生管理、嗜好・アレルギーの個別対応など適切である。リハビリテーションは目標の見直し体制、多職種との情報共有、長期休日の対応など適切である。診療記録は紙カルテであり、貸出管理、病名コーディング、量的点検など適切に管理している。機器の保守・点検はマニュアルを遵守して実施している。医療機器管理責任者は、院内に保有している全ての医療機器を台帳により一元管理し、保守点検計画と実績状況を把握している。病理検査は稀であるが、外部委託で適切に行われている。輸血も予定輸血のみで実施数は少ないが、責任医師の下で適切に実施されている。

10. 組織・施設の管理

財務・経営管理は病院会計準則に沿った会計処理であり、月別予算に基づく経営分析を行っている。医事業務においては、レセプト請求について全件医師が関与しており、査定・返戻は・再請求の可否の検討も速やかに行っている。施設基準は事務課で確認し、未収金の管理も適切に行っている。業務委託は経営会議で検討し、委託の是非、業者選定、委託従業者の教育、事故発生時の対応方針などいずれも適切である。

施設・設備管理は年間計画に基づき適切に管理している。医療ガス安全管理委員会を開催し、医療ガスの保守・点検も実施している。購買管理は発注・検収の体制、棚卸し、高額物品の購入ルールなどいずれも適切に運用している。ディスプレイ製品の再利用は行っていない。災害時の対応は、機能存続計画を踏まえたマニュアルを整備し、防災訓練を実施している。非常時の水・食料品などの備蓄は適切に確保している。保安体制として専任日当直者を配置し、緊急時の連絡網を整備して職員に周知している。

1 患者中心の医療の推進

評価判定結果

1.1	患者の意思を尊重した医療	
1.1.1	患者の権利を明確にし、権利の擁護に努めている	A
1.1.2	患者が理解できるような説明を行い、同意を得ている	B
1.1.3	患者と診療情報を共有し、医療への患者参加を促進している	A
1.1.4	患者支援体制を整備し、患者との対話を促進している	A
1.1.5	患者の個人情報適切に取り扱っている	A
1.1.6	臨床における倫理的課題について継続的に取り組んでいる	B
1.2	地域への情報発信と連携	
1.2.1	必要な情報を地域等へわかりやすく発信している	B
1.2.2	地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携している	A
1.2.3	地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている	A
1.3	患者の安全確保に向けた取り組み	
1.3.1	安全確保に向けた体制が確立している	B
1.3.2	安全確保に向けた情報収集と検討を行っている	A
1.3.3	医療事故等に適切に対応している	A
1.4	医療関連感染制御に向けた取り組み	
1.4.1	医療関連感染制御に向けた体制が確立している	A
1.4.2	医療関連感染制御に向けた情報収集と検討を行っている	A
1.5	継続的質改善のための取り組み	
1.5.1	業務の質改善に向け継続的に取り組んでいる	B

1.5.2	診療の質の向上に向けた活動に取り組んでいる	B
1.5.3	患者・家族の意見を活用し、医療サービスの質向上に向けた活動に取り組んでいる	B
1.5.4	倫理・安全面などに配慮しながら、新たな診療・治療方法や技術を導入している	B
1.6	療養環境の整備と利便性	
1.6.1	施設・設備が利用者の安全性・利便性・快適性に配慮されている	A
1.6.2	療養環境を整備している	B
1.6.3	受動喫煙を防止している	A

2 良質な医療の実践 1

評価判定結果

2.1	診療・ケアにおける質と安全の確保	
2.1.1	診療・ケアの管理・責任体制が明確である	B
2.1.2	診療記録を適切に記載している	B
2.1.3	患者・部位・検体などの誤認防止対策を実践している	A
2.1.4	情報伝達エラー防止対策を実践している	A
2.1.5	薬剤の安全な使用に向けた対策を実践している	A
2.1.6	転倒・転落防止対策を実践している	A
2.1.7	医療機器を安全に使用している	A
2.1.8	患者等の急変時に適切に対応している	A
2.1.9	医療関連感染を制御するための活動を実践している	A
2.1.10	抗菌薬を適正に使用している	A
2.1.11	患者・家族の倫理的課題等を把握し、誠実に対応している	A
2.1.12	多職種が協働して患者の診療・ケアを行っている	A
2.2	チーム医療による診療・ケアの実践	
2.2.1	来院した患者が円滑に診察を受けることができる	A
2.2.2	外来診療を適切に行っている	A
2.2.3	診断的検査を確実・安全に実施している	B
2.2.4	入院の決定を適切に行っている	A
2.2.5	診断・評価を適切に行い、診療計画を作成している	A
2.2.6	診療計画と連携したケア計画を作成している	A
2.2.7	患者・家族からの医療相談に適切に対応している	A

2.2.8	患者が円滑に入院できる	A
2.2.9	医師は病棟業務を適切に行っている	A
2.2.10	看護・介護職は病棟業務を適切に行っている	A
2.2.11	患者主体の診療・ケアを心身両面から適切に行っている	A
2.2.12	投薬・注射を確実・安全に実施している	A
2.2.13	輸血・血液製剤投与を確実・安全に実施している	A
2.2.14	重症患者の管理を適切に行っている	A
2.2.15	褥瘡の予防・治療を適切に行っている	A
2.2.16	栄養管理と食事支援を適切に行っている	A
2.2.17	症状などの緩和を適切に行っている	B
2.2.18	慢性期のリハビリテーション・ケアを適切に行っている	A
2.2.19	療養生活の活性化を図り、自立支援に向けて取り組んでいる	B
2.2.20	身体拘束（身体抑制）の最小化を適切に行っている	B
2.2.21	患者・家族への退院支援を適切に行っている	A
2.2.22	必要な患者に継続した診療・ケアを実施している	A
2.2.23	ターミナルステージへの対応を適切に行っている	B

3 良質な医療の実践 2

評価判定結果

3.1	良質な医療を構成する機能 1	
3.1.1	薬剤管理機能を適切に発揮している	A
3.1.2	臨床検査機能を適切に発揮している	A
3.1.3	画像診断機能を適切に発揮している	A
3.1.4	栄養管理機能を適切に発揮している	A
3.1.5	リハビリテーション機能を適切に発揮している	A
3.1.6	診療情報管理機能を適切に発揮している	A
3.1.7	医療機器管理機能を適切に発揮している	A
3.1.8	洗浄・滅菌機能を適切に発揮している	NA
3.2	良質な医療を構成する機能 2	
3.2.1	病理診断機能を適切に発揮している	A
3.2.2	放射線治療機能を適切に発揮している	NA
3.2.3	輸血・血液管理機能を適切に発揮している	A
3.2.4	手術・麻酔機能を適切に発揮している	NA
3.2.5	集中治療機能を適切に発揮している	NA
3.2.6	救急医療機能を適切に発揮している	NA

4 理念達成に向けた組織運営

評価判定結果

4.1	病院組織の運営	
4.1.1	理念・基本方針を明確にし、病院運営の基本としている	A
4.1.2	病院運営を適切に行う体制が確立している	A
4.1.3	計画的・効果的な組織運営を行っている	A
4.1.4	院内で発生する情報を有効に活用している	B
4.1.5	文書管理に関する方針を明確にし、組織として管理する仕組みがある	A
4.2	人事・労務管理	
4.2.1	役割・機能に見合った人材を確保している	B
4.2.2	人事・労務管理を適切に行っている	A
4.2.3	職員の安全衛生管理を適切に行っている	A
4.2.4	職員にとって魅力ある職場となるよう努めている	A
4.3	教育・研修	
4.3.1	職員への教育・研修を適切に行っている	B
4.3.2	職員の能力評価・能力開発を適切に行っている	A
4.3.3	学生実習等を適切に行っている	NA
4.4	経営管理	
4.4.1	財務・経営管理を適切に行っている	A
4.4.2	医事業務を適切に行っている	A
4.4.3	効果的な業務委託を行っている	A

4.5 施設・設備管理

4.5.1	施設・設備を適切に管理している	A
-------	-----------------	---

4.5.2	購買管理を適切に行っている	A
-------	---------------	---

4.6 病院の危機管理

4.6.1	災害時等の危機管理への対応を適切に行っている	A
-------	------------------------	---

4.6.2	保安業務を適切に行っている	A
-------	---------------	---

年間データ取得期間： 2021年 4月 1日～2022年 3月 31日
 時点データ取得日： 2023年 1月 1日

I 病院の基本的概要

I-1 病院施設

- I-1-1 病院名： 医療法人社団三成会 河北前田病院
 I-1-2 機能種別： 慢性期病院
 I-1-3 開設者： 医療法人
 I-1-4 所在地： 東京都杉並区本天沼1-2-1

I-1-5 病床数

	許可病床数	稼働病床数	増減数(3年前から)	病床利用率(%)	平均在院日数(日)
一般病床					
療養病床	111	111	-6	59.1	121
医療保険適用	111	111	-6	59.1	121
介護保険適用					
精神病床					
結核病床					
感染症病床					
総数	111	111	-6		

I-1-6 特殊病床・診療設備

	稼働病床数	3年前からの増減数
救急専用病床		
集中治療管理室 (ICU)		
冠状動脈疾患集中治療管理室 (CCU)		
ハイケアユニット (HCU)		
脳卒中ケアユニット (SCU)		
新生児集中治療管理室 (NICU)		
周産期集中治療管理室 (MFICU)		
放射線病室		
無菌病室		
人工透析	1	+1
小児入院医療管理料病床		
回復期リハビリテーション病床		
地域包括ケア病床		
特殊疾患入院医療管理料病床		
障害者施設等入院基本料算定病床		
緩和ケア病床		
精神科隔離室		
精神科救急入院病床		
精神科急性期治療病床		
精神療養病床		
認知症治療病床		

I-1-7 病院の役割・機能等

--

I-1-8 臨床研修

I-1-8-1 臨床研修病院の区分

- 医科 1) 基幹型 2) 協力型 3) 協力施設 4) 非該当
 歯科 1) 単独型 2) 管理型 3) 協力型 4) 連携型 5) 研修協力施設
 非該当

I-1-8-2 研修医の状況

- 研修医有無 1) いる 医科 1年目： 人 2年目： 人 歯科： 人
 2) いない

I-1-9 コンピュータシステムの利用状況

- 電子カルテ 1) あり 2) なし 院内LAN 1) あり 2) なし
 オーダリングシステム 1) あり 2) なし PACS 1) あり 2) なし

